

2025年度 大学院授業アンケート

生活科学研究科

履修者	4
回答者	3
回答率	75.0%

◆授業評価アンケート

1. あなたはこの授業に何を期待して履修しようと思いましたが。	<ul style="list-style-type: none"> ・食品学についての知識を深めようと思ったため。 ・摘果りんごについて学びたいと思ったため。 ・調理については分からないことがたくさんあったため、学びたいと思ったため。
---------------------------------	---

	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
2. 1の期待に満足する授業でしたか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3. この授業は自分の学修に役立ちましたか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

4. この授業に対する感想を自由に書いてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい指導をしていただいた。 ・2年間いろいろなことがあったが、たくさんの経験が出来た。 ・お茶の淹れ方や調理の知識について学ぶことが出来た。
---------------------------	---

◆授業改善に関する報告

はじめに、2024年度と比較して授業アンケートの回答率が57%から75%へと大きく向上しており、大学院の講義に対する学生の積極的な取り組みや関心の高まりが明確に表れていると感じました。

「1. あなたはこの授業に何を期待して履修しようと思いましたが。」の設問では、「食品学についての知識を深めたいと思ったため」「摘果りんごについて学びたいと思ったため」「調理について分からないことが多く、学びたいと思ったため」などの回答が見られ、シラバスの内容と大学院での研究への関心とが適切に結び付いている様子がうかがえました。

また、「4. 授業の内容に、興味・関心を持つことができた。」の設問では、「分かりやすい指導をしていただいた」「2年間、さまざまな出来事があったが、多くの経験を積むことができた」「お茶の淹れ方や調理に関する知識を学ぶことができた」といった意見が寄せられ、大学院の講義全体に対する満足度が高い結果となっており、大変喜ばしいことだと感じています。

このような結果は、大学院の講義が、知識や技術を一方的に学ぶ学部との多くの講義とは異なり、教員と学生がテーマや研究成果について議論を重ねることによって、シラバスの枠を超えた、より深い学びへと発展しているためであると考えられます。その過程で、科学的なものの考え方を身に付ける機会も多くなっているのではないのでしょうか。

学生の皆さんからの「分かりやすい指導をしていただいた」という言葉は、教員にとって何よりの励みになります。大学院において研究に取り組む立場としては、教員も学生も対等であり、教員自身も、講義や研究を通して新たな発見や気づきを得ています。学生の皆さんと共に、わくわくしながら研究に取り組む姿勢を大切にしていきたいと考えています。

修士論文や博士論文の作成、学会発表、さらには学会誌への論文投稿に至るまでの道のりは決して平坦ではありません。しかし、楽しみながら一つ一つの壁を乗り越え、次の目標へと挑戦していくことの大切さを実感し、それぞれの目標に向かって夢を実現して欲しいと願っています。